

第1学年 生活科指導案

指導者 藤ノ原 香

1 単元名 あきとあそぼう

2 単元について

本単元は、生活科の内容(5)(6)とかかわりのあるものである。その中でも特に、

(6)身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

という内容と深くかかわっている。

ここでは、身近にある秋を感じられる自然を利用したり、遊びに使う物を工夫して作ったりすることが主な活動である。そして、その過程を通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなで秋の遊びを楽しむことができるようにすることをねらいとしている。

ここでいう身近な自然とは、子どもたちを取り巻く自然の中から、子どもたちが自分でやってみたいという遊びのために選び出す自然のことである。

本学級の子どもたちは、生活科の学習に意欲的で、前単元「なつとなかよし」では、登下校中に見つけたものを紹介し合った際に、たくさんの自然物を見つけ、触れるなどしていることが分かった。学校の校庭はどうなっているか確かめるために、ネイチャービンゴを行った際には、一生懸命夏の自然物を探して見つけては喜んでいて、これらの活動を通し、地域の公園探検を行い、遊具で遊んだり、自然のものに触れたりするという活動を行った。しかし、その時の子どもたちの様子は、周りにある自然物には気付いていたが、遊具などのものを使って遊ぶことが多く、自然物を使って遊ぶという子はほとんど見られなかった。一方で、「いきものとなかよし」では、虫探しをしながら、秋を感じるものを見つけることができている子がいたり、どんぐりやイチョウ、きれいな色の落ち葉を見つけたりしていた。見つける、触れるなどの経験はあっても、自然物を使った「遊び」の経験が少ないことが子どもたちの遊びの広がりやなさに影響していると考えられる。そこで、本単元では、まず子どもたちが気づきやすい季節の変化に目を向けさせる。そのために夏の公園探検の経験を振り返る。夏の公園マップを提示し、今の季節と違うところを見つけるという目的を持たせ、秋になった地域の公園を探検し、秋探しをする。秋探しで見つけた自然物と繰り返しかかわるとい活動を通して、その面白さや不思議さに気付いたりできるようになることを目指したい。そして、本単元全体を通して、自然物を使った遊びやおもちゃについて「比べる」「繰り返す」「試す」などの活動を充実させることで、子どもたちが一人で遊びを楽しむ姿から、自然物の特徴を生かして、工夫しながら友達と遊びを楽しむ姿へと変わっていく姿を見られるようにしたい。また、一つ一つの活動の後には、必ず振り返りを行う。振り返りカードを絵や文で書くことで、目、耳、鼻、手の諸感覚を使って、自然物の特徴に気付くことができたり、次時にやってみたいという子どもの気持ちが持続したりするような活動が行えるようにしたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

秋になった町や公園などを散歩したり、秋の自然物を探したりしながら、季節の変化に気付くことができるようにするとともに、秋の自然物や身の回りの素材を利用しておもちゃや飾りを作ったり、遊び方を工夫したりしながら、みんなで秋の遊びを楽しむことができる。

(2) 単元の評価規準

○秋の自然に興味をもって触れ合い、秋の自然物や身の回りの素材を利用したおもちゃや飾りを作って、友達と楽しく遊ぼうとしている。(生活科への関心・意欲・態度)

○秋の自然物を見つけたり比べたりして、それらの特徴や遊んだ時の楽しさを表現したり、見つけた自然物の特徴を生かしてお気に入りのおもちゃや飾りを作ったりしている。

(活動や体験についての思考・表現)

○秋の自然物や身の回りの素材を利用した遊びやおもちゃ作りを通して、秋の季節の変化や不思議さ、自分や友達によさに気付いている。(身近な環境や自分についての気付き)

4 活動の流れ(20時間扱い)

【活動のきっかけ】

落ち葉はカサカサ音がするな。他にはどんなものがあるのだろう。

落ち葉やどんぐりで、どんなことをしたら楽しかかな。

もっと楽しくなる遊び方はないかな。

【主な活動と内容】

時数	児童の主な活動と内容	教師の支援(○)と評価(◆)
1	<ul style="list-style-type: none"> 夏の公園探検を振り返り、身近な秋について思い出す。 「はてなボックス」で音を聞いたり、においをかいだり、触ったりして、秋と触れ合う。校庭で秋探しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○秋の自然物を用意することで、諸感覚を使って秋を感じることができるようにする。 ○夏の公園探検の時の写真を掲示することで、今の季節と比較できるようにする。
2・3	<ul style="list-style-type: none"> 地域の公園へ、秋を見つけに行く。 はっけんカードを書く。(常時活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの活動や発言をメモしておく。 ◆見つけた秋の自然物と触れ合うなかで、自然の不思議さや変化に気付いている。 (気付き)
4	<ul style="list-style-type: none"> はっけんカードをもとに見つけた秋を友達に伝える。 夏と比べて変わったところは何か考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公園探検の写真を撮り、掲示できるようにしておくことで、振り返りの際に子どもが発言しやすいようにする。 ○子どもたちの見つけたことを模造紙にまとめて整理することで、夏に作っておいた公園探検の掲示物と比較できるようにする。 ◆秋の自然物がある場所を考えながら探し、見つけた秋の特徴を伝えている。 (思考・表現)
5・6	<ul style="list-style-type: none"> 地域の大きな公園へ、秋を見つけに行く。 秋の自然物で遊ぶ。 見つけた秋について振り返り、どうすればもっと楽しめるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○以前に撮った写真を提示することで、秋と触れ合う楽しさ、自然の変化を想起できるようにする。 ○「面白い」「すごい」などの子どものつぶやきを拾うことで、カードに書く言葉を書きやすくする。 ○どんな秋があったか振り返ることで、秋遊びにつなげることができるようにする。 ○イメージを広げられるように、おもちゃや遊びの載った図鑑や本を用意する。
7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 秋さがしで見つけた自然物を使って遊ぶ。 遊んで気付いたことを友達に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どんなおもちゃづくりや遊びができるか想像を膨らませられるように、素材ごとのコーナーを用意する。 ○安全に遊べるように、作る場所と遊ぶ場所

8・9	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の話聞いて、作ってみたいおもちゃを作ったり、遊んだりする。 ・お気に入りの遊びやおもちゃは、どのように作り、どのように遊ぶのか、交流する。 	<p>をわけておく。</p> <p>◆秋の自然物の特徴を生かして、おもちゃを作ったり、友達と楽しく遊んだりしている。 (関心・意欲)</p> <p>○自然物の特徴を生かした場を設けることで、どんなおもちゃづくりや遊びができるか想像を膨らませられるようにする。</p> <p>◆秋の自然物の特徴や身の回りの素材を生かして、工夫しながらおもちゃを作ったり、遊んだりすることができる。(思考・表現)</p> <p>○はっけんカードを参考にしながら、事前に必要なものを集めておくことで、子どもたちが作りたいものを作れるようにする。</p>
10・11	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の友達のおもちゃを見て、作ってみたいおもちゃを作ったり、遊んでみたいというおもちゃで遊んだりする。 	<p>○友達の良いところを真似しても良いことを促すことで、もっと楽しくなる工夫を考えられるようにする。</p> <p>◆秋の自然物の特徴や身の回りの素材を生かしておもちゃや遊びを作る中で、自然の面白さや不思議さに気付いている。(気付き)</p>
12・13	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で書いたはっけんカードを全体で共有する。 ・いろいろな遊びを試してきたなかで、どの遊びが一番のお気に入りかを振り返る。 	<p>○はっけんカードの中で、自然物の面白さを生かした遊びやおもちゃを作っていることに気付いている子どものカードを全体で共有する。</p> <p>○子どもの遊びやおもちゃについて把握しておくことで、おもちゃの説明の絵や写真、文などを作る際に助言できるようにする。</p> <p>○良くなったところを認める。</p>
14・15	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のお気に入りのおもちゃでクラスの友達と一緒に遊ぶ。 ・これまでの活動の振り返りをする。 	<p>○活動の後の振り返りで、友達のよいところを伝える時間を設けたり、次の活動の見通しをもたせたりすることで、次時の意欲を持続できるようにする。</p>
16	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと楽しく遊べるように、〇〇あきランドで、2年生の友達と遊ぶ計画を立てる。 	<p>○友達と交流する場を用意することで、みんな楽しく遊ぶためには、どんな工夫をすればよいか考えることができるようにする。</p> <p>○お気に入りのおもちゃや遊びでグループを作ることで、協力して準備ができるようにする。</p>
17・18	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生と遊ぶための準備をする。 	<p>○掲示物を用意することで、「〇〇あきランド」の流れがわかるようにする。</p> <p>○自分の作った遊びやおもちゃについて自分なりの表現方法(絵、図、文、写真)で説明できるようにする。</p>
19	<ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇あきランド」で2年生と遊びを楽しむ。 	<p>○楽しく遊べたことや、その理由、友達のよいところなどを、伝え合えるように促す。</p> <p>◆秋の自然物や身の回りの素材で作ったおも</p>

20	<p>・秋の自然物を使っておもちゃや遊びを作ったり、遊んだりしたことを振り返る。</p>	<p>ちやや考えた遊びを使って、みんなで楽しく遊ぼうとしている。(関心・意欲・態度) ○ワークシートを用意することで、秋の物で遊ぶことの楽しさに気付くことができるようにする。 ○はっけんカードを整理することで、自分の成長に気付くことができるようにする。</p>
----	--	--

5 部会研究課題とのかかわり

研究課題(2) 子供のよさやこだわりを見つけ、やる気を引き出す支援のあり方

○子どもの興味関心を引き出す体験活動の工夫

子どもたちは、学校の校庭を探検した際に、意欲的にネイチャービンゴゲームに取り組んでいた。生き物探しでも、生き物を見つけること、住処になるものを見つけることなど目的をもった活動を行うことで、興味・関心が高まることがわかってきた。そこで、子どもたちの興味・関心をもっと引き出すためには、諸感覚を使った体験活動を行うことが大切だと考える。単元計画では、導入で「はてなボックス」を使った活動、第7時では自然物の特徴に気付かせることができる場での活動、第8時から第12時まで、自然物の特徴を生かしながら実際に遊んで、作ったり、試したりしながら、十分時間をかけて体験活動を行う。これらを通して、子どもたちが自然物の特徴を知り、目を向け、またこだわりをもっておもちゃづくりや遊びを行うことができるようにすることで、興味関心が持続するだろう。

研究課題(5) 気付きの質を高める指導の工夫と改善

○気付きを共有できる掲示物の工夫

夏の公園探検では、見つけたものや友達と遊んだことなど様々な子どもたちの体験があり、その体験を振り返る際に、遊んだことだけではなく、見つけたものを尋ねた。トンボやチョウなどの生き物探しをしていた子どもたちがいたことから、遊びにはいろいろな種類があることに気付けるようにした。秋の公園探検では、活動の前に季節の変化に目を向けさせるために、夏の公園マップを提示し、活動を思い出せるようにしたい。秋の公園探検も同様に子どもの写真やつぶやきをまとめていくようにする。まとめた後に、夏と秋の変化を見て、より季節の変化に目が向くようにしたい。

○自分の気付きを深めることができる学習カードの工夫

子どもたちは、自分で気付いたことを言葉にすることができるが、経験が少ないためどのように書いてよいかわからないという子がいる。また、時間が経ってしまうと、気付いたことがあっても、忘れてしまうことも多い。そこで、単元全体を通して、気付いたことを「はっけんカード」に絵や文で書けるようにする。目、手、耳、鼻という4つの視点を与えることで、表現する際の1つのきっかけとなるようにする。このカードには、自然物の特徴を書くことがねらいである。教師はそのカードをよく見て、次の活動につながりそうなものを選んでおき、次時の導入で子どもの発見を全体に伝える。そうすることで、選ばれた子は自分の発見したことがよかったのだと自分のよさに気付くことができるだろうと考えた。また、その他の子どもたちは、自分の発見したことと比較することで、見る視点が変わるきっかけになると考えた。カードには、児童の実態に応じて見る視点を伝えておき、書きやすくしておく。書いたものは、「はっけんめいじん」という掲示物に素材ごとの気付きをグルーピングして掲示し、常時子どもたちが見られるようにしておくことで、気付きが深まることにつながるようにしたい。また、カードには「今度は」という言葉の続きに次時にやってみたいことを書けるようにする。書いたものは、全体で共有する時間を設けるだけでなく、子どもの意欲が持続するようなコメントを入れることで、気付きの質を高めることにつながるだろう。さらに、自己評価として、3つの表情の違う顔に色を塗る欄を設け、今日の活動が満足できたかどうかを振り返ることができ


るようにする。そうすることで、前時の自分と今日の自分、これまでの自分と比べることができよう。また、カードを見て、活動に満足していない子には、どうして満足いかなかったのか積極的に声をかけるようにし、次の活動にめあてを持って取り組めるようにしたい。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

○秋さがしで見つけた自然物の特徴を生かして、おもちゃを作ったり楽しく遊んだりすることができる。

(2) 展開 (7/20)

学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価												
<p>1 本時の活動やめあてをつかむ。</p>	<p>○秋探しで見つけた自然物の特徴を確認しながら提示し、意欲を高める。 ○安全に遊べるように、どのようなことをすると危険なのか確認をする。</p>												
<p>いろいろなあきのものをつかってあそぼう。</p>													
<p>2 秋の自然物で遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まつぼっくりリコーナ— 投げると面白いね。 軽いから、投げやすいよ。 ・ツバキの実コーナ— 回すとくるくる回るよ。 ・どんぐりコーナ— くるくる回ったよ。 大きさを並べてみたよ。 ・落ち葉コーナ— 色がたくさんあるから、同じ色で並べてみよう。 高いところから落とすとひらひら落ちるよ。 	<p>○自然物の特徴を生かせるような場を用意することで、おもちゃや遊びに広がり生まれるようにする。 ○どのような場があるのか黒板に掲示しておくことで、子どもたちの活動が充実したものになるようにする。 ○身近にある素材を用意することで、子どもの活動が活発になるようにする。 ○自然物の特徴を生かして、おもちゃ作りや遊びができていない子どもを認め、全体で共有する場をすることで、ほかの子どもの気付きにつながるようにする。 ◆秋の自然物や身の回りの素材を使って、おもちゃや遊びを作ろうとしている。(関・意・態)</p>												
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">まつぼっくりで遊ぶ場</td> <td style="width: 50%;">落ち葉で遊ぶ場</td> </tr> <tr> <td>踏み切り板</td> <td>一 跳び箱</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>素材</td> <td>素材</td> </tr> <tr> <td>素材</td> <td>素材</td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>どんぐりで遊ぶ場</td> <td>ツバキの実で遊ぶ場</td> </tr> </table>	まつぼっくりで遊ぶ場	落ち葉で遊ぶ場	踏み切り板	一 跳び箱	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>素材</td> <td>素材</td> </tr> <tr> <td>素材</td> <td>素材</td> </tr> </table>		素材	素材	素材	素材	どんぐりで遊ぶ場	ツバキの実で遊ぶ場	<p>○「はっけんめいじん」の掲示物を提示することで、自然物の特徴に目が向くようにする。 ○子どもの発言の中で、自然物の特徴を生かしていた遊びやおもちゃを考えている子がいたら、褒めるようにすることで、気付きの視点を与え、気付きの質を高められるようにする。 ○子どもの活動を見ながら、次時に必要なものを把握する。 ○友達の良いところに気付いている子がいたら認めるようにすることで、自分のよさにも気付けるようにする。</p>
まつぼっくりで遊ぶ場	落ち葉で遊ぶ場												
踏み切り板	一 跳び箱												
<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>素材</td> <td>素材</td> </tr> <tr> <td>素材</td> <td>素材</td> </tr> </table>		素材	素材	素材	素材								
素材	素材												
素材	素材												
どんぐりで遊ぶ場	ツバキの実で遊ぶ場												
<p><活動の場></p>													
<p>3 本時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まつぼっくりコーナ— 	<p>○はっけんカードの「こんどは」を見て必要なものを用意することで、子どもの遊びのイメージが広がる</p>												

ギザギザのところがあるから、くっつけてみたよ。

- ・ツバキの実コーナー

丸くてツルツルしているから、おはじきみたいにはじいてみたよ。

- ・どんぐりコーナー

平べったいところがあるから、立てて並べてみたよ。
坂道をよく転がっていったよ。

- ・落ち葉コーナー

色ごとに分けてみたら、たくさんの色があったよ。
薄い落ち葉と硬い落ち葉では、落ち方が違ったよ。

4 次時の活動の見通しをもつ。

- ・はっけんカードを書く。

ようにする。

- 自然物の特徴を使っているおもちゃなどを考えていた子を事前に把握しておくことで、次時の活動に生かされるようにする。
- 自然物の特徴を生かしている子を称賛する。
- 実際に作ったものを見せながらやってもよいことを促す。
- 他の素材コーナーのおもちゃと比べて、真似できそうなところはないか投げかけることで、次の活動に生かせるようにする。

- 本時の活動を振り返らせた際に、イメージに広がりを持たせられない子に声掛けをすることで、子どもの「もっとこうしたい」という思いが生まれるようにする。